

# 令和5年度 学校経営方針

小樽市立望洋台小学校

校長 及川 年彦

## 1. はじめに

### (1) これからの学校（学習指導要領前文より）

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成(教育基本法第1条及び第2条)を目指しつつ、一人一人の児童が、**自分のよさや可能性を認識**するとともに、**あらゆる他者を価値のある存在として尊重**し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を乗り越え、**豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となる**ことができるようにすることが求められる。**身に付けさせるべき資質・能力**

### (2) 学校教育の成否（『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について）（中教審答申 令和4年12月19日）より）

学校教育の成否は、教師の力に大きく依存していることは言うまでもない。**教師自身も時代の変化に応じて学び続けていく**ことが求められる。しかし、一人一人の教師の力だけで学校現場が抱える多くの課題を解決することは困難である。だからこそ、**多様な専門性を有するチームを形成し、組織の力で多くの課題や一人一人の児童に向き合っていく**必要がある。

**一人一人のスキルアップで支える「チーム望洋台小」**

## 2. 学校の教育目標（昭和59（1984）年4月制定）

【 未来に向かって たくましく伸びる 望洋台の子 】

- 自ら考え 工夫する子 ( **知** 考える子 )
- 思いやりのある やさしい子 ( **情** やさしい子 )
- 進んで行動し やりぬく子 ( **意** やりぬく子 )
- 明るく 健康な子 ( **体** 元気な子 )
- 協力し 働く子 ( **技** はたらく子 )

## 3. 目指す学校像

全ての子どもたちの可能性を引き出し、  
一人一人の子どもを主語にする学校

「子どもの可能性を引き出す」ためには、子ども自身が「自分には何ができているだろうか」「何かの役に立っているだろうか」などに『気づかせる』＝『自己肯定感を高める評価』が必要である。

「学ばせる」「覚えさせる」「並ばせる」「持たせる」など「〇〇させる」は、学校や教職員が主語である。「〇〇させる」が常態化すると、子どもたちは「教わる」ことに慣れてしまい、子どもたちの自ら学ぶ姿勢は置いてきぼりになる。

「子どもを主語にする学校」とは、『教職員の視点』から『学習者の視点』、『授業』から『学習』へ、『履修』から『習得』へ、『指導』から『伴走』へとシフトしていく学校である。

#### 4. 目指す教師像

##### ○ 授業力の向上（スキルアップ）を目指し、常に学び続ける教師（教職員）

- ⇒ 令和の日本型学校教育 ～ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ⇒ 一人一台端末の効果的な利活用
- ⇒ 小樽 授業づくり5つのSTEP!! …… etc

##### ○ 一人一人の子どもに寄り添い、大切に作る教師（教職員）

- ⇒ 「居場所」のある学級づくり ～ 子どもが安心して学べる環境づくり **学習規律**
- ⇒ 子どもの範となる教師（教職員） ～ 時間を守る、整理整頓、TPO **隠れたカリキュラム**
- ⇒ 交換授業の実施 ～ 複数の目で子どもをとらえる …… etc

##### ○ チームでクリエイティブな仕事をする教師（教職員）

- ⇒ 「やさしさ」と「つながり」を大切にした教師（教職員）集団
- ⇒ ポストコロナ時代の学校教育の創造
- ⇒ 効率的な働き方を目指す ～ 必要なことに時間をかける働き方 …… etc

#### 5. 目指す子ども像（学校の教育目標）と年度の重点

##### ○ 自ら考え 工夫する子 （**知** 考える子）

・ 基礎的・基本的な知識や技能を習得し、それらを活用して主体的に学ぶ子ども

##### ◎ 思いやりのある やさしい子 （**情** やさしい子）

・ 相手の視点に立って、気持ちを考えることができる子ども

##### ○ 進んで行動し やりぬく子 （**意** やりぬく子）

・ 夢や希望を持ち、困難にもあきらめず取り組むことができる子ども

##### ○ 明るく 健康な子 （**体** 元気な子）

・ 元気に挨拶し、生活のリズムを身に付け、運動する子ども

##### ◎ 協力し 働く子 （**技** はたらく子）

・ 他者と意見や考えを交わし、協力しながら目標の達成や課題の解決を目指す子ども

#### 【年度の重点】

考え、伝え、認め合う子どもの育成  
～「やさしさ」と「つながり」～

昨年度の教職員自己評価では、「子どもたちは、相手の気持ちを考えたり、立場を理解したりできる子に育っている。〈やさしさ〉」が3ポイント、「子どもたちは、コミュニケーション能力（伝える・聞き取る力）が高まっている。〈つながり〉」が2.9ポイントと昨年度の重点が十分達成されているとはいえない。

そこで、今年度も引き続き、「やさしさ」と「つながり」をキーワードに『考え、伝え、認め合う子どもの育成』を目指し、そのための**マネジメントサイクル**を確立する。

## 6. 具体的な方策と目標（小樽市教育推進計画より）

### ①未来を創る力の育成

急激な社会的変化の中にあっても、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができる学校教育の充実を目指す。

施策項目	主な取組	数値目標
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の推進</li> <li>・全国的な調査の実施と分析</li> <li>・樽っ子サポート事業の活用</li> <li>・小樽子どもの詩コンクール参加</li> <li>・音読の推進</li> <li>・ICT機器の活用</li> <li>・生活習慣の改善</li> </ul>	全国学力・学習状況調査及び標準学力検査の平均正答率全国平均以上または全国平均と同等（±2）
2 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成</li> <li>・通級指導教室との連携</li> <li>・特別支援教育に関する研修会参加</li> <li>・特別な支援を要する子のための校内体制の整備</li> </ul>	<b>特別支援教育に関する校内研修年2回以上実施</b>
3 国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オールイングリッシュ授業の実施</li> <li>・小樽商科大学との連携</li> <li>・小樽ユネスコ協会等との連携</li> </ul>	中学校と連携し、英検を受験する児童延べ15名以上
4 理数教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導力向上</li> <li>・関係機関及び関係団体との連携（小樽市教育研究所、各教育研究団体、総合博物館等）</li> </ul>	「算数の勉強が楽しい・よくわかる」と回答する児童85%以上
5 情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用</li> <li>・プログラミング教育の充実</li> <li>・情報モラル教室の実施</li> <li>・教員研修の充実</li> </ul>	「授業等で端末を活用している」と回答する教員100%
6 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導の充実</li> <li>・外部講師の活用</li> <li>・主権者教育の充実</li> </ul>	「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば持っている」と回答する児童80%以上

特に施策項目2「特別支援教育の充実」では、「誰一人取り残さない学び」を目指し、特別支援教育について研修する機会を設ける。

## ②豊かな心の育成

子どもたちに基本的な倫理観や規範意識を身に付けさせるとともに、ふるさと小樽への愛着や思いやりの心など、豊かな心の育成を目指す。

施策項目	主な取組	数値目標
7 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科道徳（道徳科）」の充実</li> <li>・規範意識の醸成</li> <li>・豊かな情操の育成</li> <li>・人権教育の実施</li> </ul>	<p>・「<b>自分によいところがある・どちらかといえばある</b>」と回答する児童 <b>80%以上</b></p> <p>・「<b>学校は、思いやりなどの豊かな心を育む取組を行っている・どちらかといえば行っている</b>」と回答する保護者 <b>90%以上</b></p>
8 ふるさと教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと教育の推進（年間指導計画への明確な位置付け）</li> <li>・ふるさとの伝統的な行事への参加</li> </ul>	外部講師を活用したふるさと教育年1回以上実施
9 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館機能の充実</li> <li>・読書習慣の形成</li> <li>・図書ボランティアや市立小樽図書館との連携</li> </ul>	「本を読むのが好き・どちらかといえば好き」と回答する児童70%以上
10 体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程への適切な位置付け</li> <li>・社会教育施設や地域の教育資源の効果的な活用</li> <li>・地域活動に取り組む人材の育成</li> </ul>	社会福祉体験、町内会（PTA活動）、児童会と中学校生徒会との交流などを通じた社会貢献活動を年1回以上実施
11 コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実</li> <li>・コミュニケーション能力を高める教育活動の充実</li> </ul>	「 <b>子どもたちが自分の考えや思いを伝える場を設定している・どちらかといえば設定している</b> 」と回答する教員 <b>100%</b>
12 いじめの防止や不登校生徒の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止基本方針に基づく指導の充実</li> <li>・情報モラル教育の充実</li> <li>・組織的な不登校対策の推進</li> </ul>	「仲間はずれやいじめをしないで、楽しく生活している・どちらかといえばしている」と回答する児童80%以上

特に施策項目7「道徳教育の充実」では、「やさしさ」を育み、自己肯定感を高める評価を推進する。また、施策項目11「コミュニケーション能力の育成」では、「つながり」を充実させるために授業を中心に計画的・意図的な場を設定する。

### ③健やかな体の育成

健康を保持増進し、体力・運動能力の向上を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるなど、健康教育の充実を目指す。

施策項目	主な取組	数値目標
13 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>・全校的な調査等を活用した授業改善</li><li>・教員の指導力の向上</li><li>・スポーツイベント等への参加促進</li><li>・家庭や地域との連携</li></ul>	<b>シャトルラン 15 回+ (5 回×(学年-1) の達成率 100%</b>
14 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・「早寝早起き朝ご飯」運動の推進</li><li>・外部講師を活用した食育の充実</li><li>・食物アレルギーに関する研修の実施</li></ul>	栄養教諭等外部講師による食育の授業を年 1 回以上実施
15 健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・保健指導の充実</li><li>・外部講師を活用した健康教育の充実</li><li>・病気予防や生活習慣病対策の啓発</li><li>・家庭や地域との連携</li></ul>	外部講師による薬物乱用防止教室年 1 実施

体力向上は本校の課題である。施策項目 13「体力・運動能力の向上」の数値目標達成を目指し、運動量確保に向けた体育科授業を構築する。

### ④家庭・地域との連携・協働の推進

基本的な生活習慣や豊かな情操の出発点である家庭教育を支援するとともに学校と地域が連携・協働した組織的・継続的な環境づくりを推進する。

施策項目	主な取組	数値目標
16 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・PTA と連携した学習機会の設定</li><li>・家庭と連携した望ましい生活習慣の確立</li><li>・スポーツイベント等への参加促進</li><li>・家庭や地域との連携</li></ul>	<b>家庭学習時間「学年×10 分+10 分」の達成率 70%以上</b>
17 学校と地域の連携・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域ボランティアとの連携(樽っ子サポート事業等)</li><li>・コミ・スク導入を見据えた地域連携・協働体制の構築</li></ul>	「学校は、保護者や地域と連携した教育活動を行っている・どちらかといえば行っている」と回答する保護者 90%以上

特に施策項目 16「家庭教育支援の充実」では、本校の課題である「家庭学習時間」の充実に向けた取組を家庭と連携し、推進する。

また、施策項目 17「学校と地域の連携・協働の推進」では、**『開校 40 周年記念事業の実施』**と**『令和 6 年度コミ・スクの導入』**に向けた取組を推進する。

## ⑤学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

新たな教育課題に対応するため、教員の資質・能力の向上、学校の施設設備の充実、学校段階間の連携などの改善を進めるとともに、教職員の働き方改革の推進や学校安全教育の充実を目指す。

施策項目	主な取組	数値目標
18 学校段階間の連携・接続の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の推進</li> <li>・小学校、中学校、高等学校のなめらかな接続</li> </ul>	小中互いの公開研究会への参加 100%
19 教育環境の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の点検・整備</li> <li>・快適な学習環境の整備</li> <li>・ICT 機器の整備</li> </ul>	教育環境点検を年 2 回以上実施
20 教職員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修の充実</li> <li>・公開研究会の実施</li> <li>・校外研修への参加</li> <li>・服務規律の徹底</li> </ul>	<b>人事評価シートに「スキルアップ」に関する自己目標設定 100%</b>
21 学校運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内外のチーム学校の推進 (SC、SSW、児童福祉関係機関、保健所、医療機関等)</li> <li>・勤務時間を意識した働き方の推進</li> <li>・業務改善 WS の実施</li> </ul>	「あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている・どちらかといえばあたっている」と回答する教職員 80%以上
22 学校安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の安全点検の実施</li> <li>・防犯に関する教育の充実</li> <li>・防災に関する教育の充実</li> <li>・交通安全に関する教育の充実</li> <li>・生活安全に関する教育の充実</li> </ul>	引き取り訓練年 1 回実施

特に施策項目 20「教職員の資質・能力の向上」では、時代の変化に応じて学び続ける教職員を目指す。